

第25回 山形市子ども・子育て会議 議事録

日 時：令和6年3月4日（月）午前10時から12時

場 所：山形市役所 7階 701会議室

I 出席者

- | | | | | |
|-----------|--|---------|---------|--------|
| 1 委員（16名） | 在原智橋員 | 高橋あゆみ橋員 | 大桃伸一委員 | 佐藤睦子委員 |
| | 本島優子委員 | 大沼美鈴委員 | 高橋公夫委員 | 前田浩一委員 |
| | 宮舘照彦委員 | 海和伸吉委員 | 佐々木僚委員 | 佐藤一彦委員 |
| | 山川美江子委員 | 高瀬謙治委員 | 野口比呂美委員 | 深瀬豊子委員 |
| 欠席（4名） | 野田健作委員 | 佐藤浩子委員 | 高橋公夫委員 | 中井伸一委員 |
| 2 事務局 | 奥山こども未来部長、荒木こども未来課長、庄子保育育成課長
古内こども家庭支援課長、奥山保育計画推進総括主幹、今野総括、三沢課
長補佐、瀧川主幹、齋藤主任 | | | |

II 傍聴者

- | | |
|---------|----|
| 1 一般傍聴者 | 0名 |
| 2 報道機関 | 0名 |

III 会 議

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 こども未来部長挨拶
- 4 議 事
- 5 協 議

4 議事

- （1）山形市子ども・子育て会議会長の選任について

大桃委員を会長に選任

- （2）山形市子ども・子育て会議会長職務代理者の指名について

高瀬委員を会長職務代理者に指名

5 協議

- （1）教育・保育の量の見込みに対する確保方策の見直しについて

資料1に基づき事務局より説明

（主な質疑等）

委員

事務局

保育所の入所相談を受けていると希望の保育園に入れないという相談が寄せられたりすることがあるが、そういった意向も含んだ調整なのか。
今回の見直しにつきましては、各園からの申し出等を受け定員調整をしたものになるが、全ての園が定員減を希望しているわけではなく、1号認定を減らし、2号認定を増やすなど、園の状況によって増減がある。

	また、現在保育の供給量が需要量を上回っている状況であり、特定の園に希望が多い状況であっても、定員の増は認めていない。希望が集中している園については、現在の定員の中で増減させたり工夫いただいている。
委員	これは、定員の数による集計で弾力運用等の数は含んでいないということでもいいのか。
事務局	そのとおりである。
委員	保育需要の減少傾向があるということですが、女性の就業率の増加による保育需要が高まっているという傾向もあるとおもうがどのように考えているのか。
事務局	山形市では、第二期子ども・子育て支援事業計画の量の見込みにおいて女性就業率の増加も反映し、量の見込みを作成している。
委員	女性の就業率が増え、親が子供にかかる時間が減っている。かける時間は、子どもの成長に大事な部分になるかと思うのでそのあたりについても検討してほしい。
委員	山形市の場合、1号認定の中でも、新2号を利用している方が多いと感じているが、1号認定のうち新2号の割合を把握はしているのか。
事務局	第二期子ども・子育て支援事業計画の量の見込みにおいては、幼稚園の預かり保育を見込んでいるが、実際の数については、把握が難しく持ち合わせていない。
委員	年度当初は定員に空きがあり、年度途中から入園者が増え、定員が埋まる状況が何年か続いている。人件費等、固定費は、定員によって変わるわけではないので年度途中まで赤字が続く状況の園が多いと感じているが市で補助等なにか対策を考えていることはあるか。
委員	家庭的保育事業の場合は、年度当初0人の場合の事業所が出てきている。0人の状況が続くと従業員を辞めてしまったり、賃貸料がかかったりするため、年度途中から入所の希望があっても対応できない場合があるため、補助があるといい。
事務局	第三期子ども・子育て支援事業計画で必要な支援等を検討させていただきたい。また、来年度育児休業中から育児休業明けに向け入所予約ができるような事業を考えている。
委員	放課後児童クラブの職員の人材不足が課題となっている。
事務局	市でも課題と思っており、来年度、放課後児童クラブの就職ガイダンスについて支援を行う予定をしている。課題解決に向け、今後も、放課後児童クラブと連携していきたいと考えている。
委員	今後、保育の供給量の変動が激しくなっていくと思う。定員の減があっても、年度途中の定員の弾力運用については、柔軟に行えるよう第三期子ども・子育て支援事業計画でも検討いただきたい。
事務局	弾力運用については法令に基づき、可能な範囲で行えるよう検討していきたい。

(2) 病児保育事業の見直しについて……資料 2

資料に基づき事務局が説明

(主な質疑等)

委員	利用者からすると、病児・病後児保育と区別をつけて利用してはいないと感じている。利用者数は減少傾向にあるので病児・病後児保育事業数全体でみると事業数は充分だと感じている。
事務局	今回の病児保育については、他の病児保育事業所に比べ、土曜日の営業及び 18 時まで営業時間ということもあり、これまで利用できなかった方のニーズが見込まれると考えている。
委員	商工会議所の要望活動の中で病児保育の営業時間等の拡充について、市に要望を出させていただいていた。迅速に対応いただき感謝している。
委員	既存の事業所に対して営業時間等の拡充等、要望してもよかったのではないかと。
事務局	公立の病後児保育事業については、来年度から 18 時までの営業時間に拡充を行った。民間の施設に対してもこれから拡充のお願いをする予定で考えている。

(3) 第三期子ども・子育て支援事業計画の策定スケジュールについて（報告）……資料 4

資料に基づき事務局が説明

(主な質疑等)

委員	ニーズ調査分析について学生の意見や評価を聞くことも有用ではないかと思う。
----	--------------------------------------

4 その他

第 26 回の子ども・子育て会議については、令和 6 年 7 月頃を予定している旨を事務局より説明。

会議に対する全体的な質疑応答

(主な質疑等)

委員	元々次第にあった、市立保育所の在り方について本日の協議にあげられなかった理由について具体的に教えていただきたい。
事務局	第二期子ども・子育て支援事業計画に記載していた検討事項にしていた市立保育所の定員の縮減について会議の段階までまとまらなかった。第三期子ども・子育て支援事業計画の計画を策定する中で共有をしたいと考えている。

5 閉 会

奥山保育計画推進総括主幹